

2026年 年頭所感「創立100周年の年を迎えて」

「共に生きる」

いよいよ2026年、100周年の年となりました。この節目にあたって改めて学院の建てられた原点を振り返り、学院の使命を共有しながら、より良いルーテルの教育を目指し1歩ずつ歩みを進めていきたいと思えます。

聖路加病院名誉院長の故日野原重明先生のこんな言葉があります。

「節目で気づくべきは、『いつでもこれからだ』という決意の時である」。そして「命は神さまから与えられたものです。その与えられたものに対し感謝し、全力疾走を続けています」と。

いま世界では、力による現状変更という自分ファーストの考えの政治がまかり通り、価値観の混乱が生じています。その結果、様々な分野で社会の分断が進んでいます。こうした考え方、風潮に対し、相反するものがキリスト教主義学校である学院の価値観です。「生かされていることに感謝し、神さまと隣人に奉仕する」という学院のスクールモットー「感恩奉仕」が示すもの、それが「共に生きる」という価値観であり、学院の100年の歩みを支えてきたもので、人と人との絆を生み、混乱した今の社会の中で重要な意味を持つということです。私たちは、そのことを胸に刻み、次の100年に向けての第一歩を踏み出したいと思えます。



理事長
内村 公春

「創立100周年の歴史から 新たな賽は投げられました」

キリスト教が誕生し、困難な時代を経て世界宗教へと変遷したのは、ローマ時代からでした。初代ローマ皇帝誕生前の時代の軍人・独裁官となったジュリアス・シーザーは、ルビコン川を渡る決心をして、歴史の扉を開きました。THE DIE IS CAST. この意味は、サイコロが投げられたという事ではなく、決断と覚悟を表す言葉として用いられ、一度振ってしまったら、もう結果は運に任せるしかない＝引き返せない。という意味です。決して後戻りできない道に進むことですが、私は以下のように解釈しています。「神様は、私たち人間には平等に賜物を与えてくださいます。ある国のことわざ曰く、神さまは、私たちに胡桃は与えてくださるが、割っては下さしません。割って食べられるかどうかは、私たち人間が努力できる余地があります。」つまり、私たち人間は愛されたい存在ですが、神さまに愛されているのですから最後まで愛されることより愛することを実践していきたい。こう思うとき、私たちの生き方の中に必要なもの、「覚悟」が人生を左右するのではないかと想っています。私たちの100周年記念事業は、神さまが与えられた、九州女学院から九州ルーテル学院という賜物が、「覚悟」を持って、次の100年に進むかどうかの人生の選択肢の一つとなっていく事でしょう。運に任せず、最後まで神様に委ね、100周年記念事業が新しい時代の扉を開く瞬間となることを祈りの中で覚えながら10月3日を中心静かに迎えたいものです。在主平安



学院長
光永 尚生

聖書の言葉

「そればかりでなく、苦難をも誇りとしています。苦難が忍耐を生み、忍耐が品格を、品格が希望を生むことを知っているからです。」

(ローマの信徒への手紙 5章3～4節)

本学院の歴史を振り返る時、大きな変化、数々の苦難を乗り越えて、100周年記念の年を迎えることができています。いや、今100周年を通過する年も、教職員・学生・生徒・児童・園児・幼児、そしてご家族の中に、さまざまな苦難を体験している、と感じる方も少なくないと想像しています。

キリスト教は、恵み深い神様が、苦難を経験しないようにしてくださるとは教えていません。イエス・キリストからいただく恵みは、決して安価なものではなく、高価な、犠牲を伴う恵みです。

その最たるものが、神がその独り子をこの世にお与えになったことです。世は、その独り子を十字架にかけ、葬ろうが、神は主イエスを墓からよみがえらせ、主イエスは人類を救し、「あなたがたに平和があるように。」と話されるのです。

これほどまでに、神は私たちを愛してくださっています。主イエスの恵み、神の愛が今も豊かに注がれている故に、苦難が忍耐を、忍耐が品格を、そして品格が希望を生みます。この希望は失望には終わりません。お一人お一人が豊かな命を得ていると実感できる時となりますように！



インターナショナルスクール小学部
チャプレン 安達 均

Contents

理事長・学院長	2026年年頭所感 創立100周年の年を迎えて	1	中学・高校からのお知らせ	3
聖書の言葉	創立記念礼拝・永年勤続表彰	1	こども園からのお知らせ	3
創立記念礼拝・永年勤続表彰	大学・保育園からのお知らせ	2	インターナショナルスクール小学部からのお知らせ	4
大学・保育園からのお知らせ		2	クリスマス特集	4

創立記念礼拝・永年勤続表彰



大学チャペルにて九州ルーテル学院創立99周年記念礼拝及び永年勤続表彰式が開催されました。創立記念礼拝では、野口チャプレンにより「ヨハネによる福音書10章7節～11節」が朗読されました。続いて光永学院長は、「のいばらが咲くルーテルの丘への想いから今を生きる」というテーマのもと、創立99周年を迎えるこの日に、教職員のみなさまとともに建学の精神に想いを馳せ、その理解を深めることの大切さを語られました。また、これまでの99年を支えてきた学院の歩みに深く感謝するとともに、創立100周年という大きな節目を迎える2026年に向けたメッセージが力強く伝えられました。

永年勤続表彰式では、12名の方々に永年勤続の表彰を受け、表彰者を代表し櫻井事務局長から学院に勤めての30年の思い出、これまでの感謝が述べられました。

表彰者一覧

◇30年表彰

櫻井 和夫 (法人職員)

◇20年表彰

西 章男 (大学教員) 久崎 孝浩 (大学教員)

江藤真紀子 (高校教員) 吉田 謙 (高校教員)

園田 松吾 (高校教員) 西山 勇介 (高校教員)

◇10年表彰

香崎智郁代 (大学教員) 山口さおり (高校教員)

宮本ケイティ (高校教員) 横山 学 (高校教員)

川田 翔大 (大学職員)

大学

学生がつくる、伝える。進化する本学オープンキャンパス

近年、本学のオープンキャンパスは、在学生が中心となって企画・運営する「学生主導型」へと大きく変化しています。当日は、多くの在学生がスタッフとして参加し、高校生や保護者を温かく迎えています。在学生ならではの視点を生かし、大学生活の魅力や学びの実際を、等身大の言葉で伝えられることが



大きな特徴です。キャンパスツアーや個別相談に加え、学生が講義で学んだ内容を生かした模擬授業の実施や、1日の生活を紹介するVlogの制作など、各学科・専攻が工夫を凝らした企画を展開しています。こうした取り組みは、高校生からも「大学生活が具体的にイメージできた」「先輩の話が参考になった」と好評を得ています。参加した高校生にとって、進路選択を考える貴重な機会となっています。

2026年のオープンキャンパスは、3月20日及び7月・8月に開催を予定しています。今後も学生と教職員が連携しながら、本学の魅力をより分かりやすく発信していきます。



くろかみ保育園

同じ想いを分かち合う、保護者フリートーク開催中

毎月第4土曜日の10時から「保護者フリートーク」を開催しています。

子育ての悩みや最近のちょっとした出来事など、お菓子や飲み物を片手にリラックスして語り合う場です。同じ子育て中の保護者同士、共感したり笑い合ったりすることで、「また明日から頑張りよう！」と思えるような温かな時間を過ごしています。

お問い合わせは【くろかみ保育園 TEL096-343-5017】です。

皆さまとお会いできるのを楽しみに待っています。



クリスマス会

和田チャプレンをお迎えし、3～5歳児クラスと保護者の皆様と共に、静かで温かな礼拝のひと時を守りクリスマス会が始まりました。5歳児は7名で「降誕劇」を行いました。一人ひとりが一役を担い、イエス様の誕生の物語を大切に演じました。少し緊張しながらも堂々とセリフを言う姿、心を込めて歌う姿は、見守る大人たちの胸を熱くさせました。会場を包んだ大きな拍手は、子どもたちにとって大きな自信となったようです。キラキラとした笑顔で達成感を味わう姿に、心身ともにたくましく成長した証を感じることができました。



「中高生、頑張りました！」

第56回熊日スポーツ賞 本校生徒3名が奨励賞を受賞

●奨励賞 馬術・門岡蘭

昨年8月の全日本ジュニア総合馬術大会のジュニアライダー（14～18歳）選手権で優勝した。「最高にうれしい。総合馬術が楽しいと思わせてくれたアルファ（号）と一生懸命走った」

馬場馬術で2位につけると、クロスカントリー、障害飛越とも減点0と完璧な走行を披露。チルドレンライダー（10～16歳）に続き、年代別トップの座を手にした。

●奨励賞 競泳・安井悠斗

昨年8月の全国高校総体競泳男子200メートル個人メドレーを、2分1秒90の熊本県新記録で初めて制した。

県勢として54年ぶりに同種目の頂点に立ち、「目標だったが、できるとは思っていなかった」。150メートルを3位で折り返すと最後の自由形で逆転。2位に0秒42差をつけた。10月の県秋季選手権50メートル自由形でも県高校新記録を樹立した。

●奨励賞 少林寺拳法・川本景子

昨年7月の全国高校総体少林寺拳法的女子個人単独演武で初優勝を飾った。

決勝の試技順は重圧のかかる1番目。「自分が（採点の）基準。後ろの人に重圧をかける」と覚悟を決め、序盤から力強い突きと蹴りを繰り出した。緩急を利かせた動きと気合を込めた声で会場の空気を一変させ、鬼気迫る演武で頂点に立った。

本文：2026年1月4日付熊本日日新聞より抜粋

少林寺拳法部、女子ハンドボール部 全国選抜大会出場決定

第12回九州高等学校少林寺拳法選抜大会（12月20、21日）
結果（全国選抜大会出場権獲得）

【女子団体演武】

第2位 川本景子、飯山紀世香、上野明梨亜、
本田ひかり、吉代恵都、渡邊莉々加（以上2年）、
鹿子木絃、梁井レイ（以上1年）

【女子規定組演武】

第2位 石丸花音、前田旭（ともに1年）

【女子自由組演武】

第2位 川本景子、鹿子木絃

全国選抜大会出場権獲得

【男子規定単独演武】 式森元紀（1年）

【男子自由単独演武】 蓑毛蓮音（1年）

【女子自由単独演武】 飯山紀世香、吉代恵都、梁井レイ

【男子自由組演武】 新村真輔（2年）、森淳晴（1年）

【女子自由組演武】 本田ひかり、渡邊莉々加

第30回全国高等学校少林寺拳法選抜大会

（3月27～29日、香川県）

第49回全国高等学校ハンドボール選抜大会

（3月24～29日、大分県）

女子ハンドボール部

本校卒業生の矢田みくにさん

初マラソン日本最高2時間19分57秒で4位（大阪国際女子マラソン）

大阪国際女子マラソンは25日、大阪市のヤンマースタジアム長居発着とする42.195キロで行われ、ルーテル高出身の矢田みくに（26）＝エディオン＝が初マラソン日本最高で日本歴代6位となる2時間19分57秒で、日本人トップの4位に入った。

国内レースで2時間20分を切ったのは、前田穂南（天満屋）に続いて2人目。矢田はロサンゼルス五輪選考会となるマラソングランドチャンピオンシップ（MGC）の切符を手にした。

本文は2026年1月26日付熊本日日新聞より抜粋

中学サッカー部 九州大会出場

12月21日、第54回熊本県教員蹴友会会長旗争奪KFA熊本県中学U-14サッカー選手権大会の決勝戦が行われ、本校サッカー部が9年連続15回目の優勝を果たしました。九州大会は3月20日、21日に沖縄県で開催されます。中学サッカー部の健闘を祈ります。

こども園

地球～なかまたち～

今年度のキリスト教保育のテーマは「ともに」です。礼拝を通して、神様がくださった命についてのお話を聞く機会もあり、みんなで地球とともに暮らす「仲間」について考える機会を持ちました。そこから、年長さんが地球を作ろうということになり、絵の具を使った手形で地球を表現し、人、鳥、虫、魚、植物等、子ども達が思い思いの仲間を描きました。作品は、お友達とともに力を合わせて頑張る運動会でも掲示されました。



外は寒くても

外は寒くても、子ども達は元気いっぱいです！園庭で昔懐かしい投コマに挑戦です。ひもをコマに巻き付けるところはお手の物。ですが、いざ、回そうとすると難しい…。上手にできるまで練習中です！



園庭には杉の子ぱっくりに挑戦中の年中さん。下駄に似ていますが、支えは紐のひとつだけ。鼻緒を足の親指と人差し指ではさんで、紐を持ちバランスをとらないと、なかなか前に進みません。

何度も何度も挑戦して昔ながらの遊びを楽しんでいました。



インターナショナルスクール小学部

Culture Festival

11/1(土)に学院食堂にて、カルチャーフェスティバルを開催しました。今年は各学年ごとの趣向を凝らしたブース展示に加え、保護者による茶道体験や、スパイスカレーの提供もありました。ステージではダンス、楽器演奏、ルービックキューブなど様々な発表があり、会場からは大きな拍手が送られました。



Open School (公開授業・研究会)



今年で2回目となるオープンスクールを11月22日(土)に実施。第1部は授業見学会として、1年生～6年生のEnglishとUOI(探究)の授業を公開しました。第2部では、教育関係者を対象に研究会を実施。県内はもとより県外の学校からも参加があり、インターナショナルスクールにおける教育について様々な意見交換がなされました。

クリスマス特集 2025

大学・保育園

12月23日(火)、大学チャペルにて、大学クリスマス礼拝が行われました。学生・教職員が心を合わせて準備を進め、厳かな雰囲気の中にも温かさを感じられる、心豊かなひとときとなりました。

礼拝では、学生によるハンドベルチームや奏楽、聖歌隊による賛美に加え、教職員有志も参加した特別賛美がささげられ、美しい歌声と音色がチャペルいっばいに響き渡りました。

また、和田チャプレンによる「ふかふかのベビーベッドではないけれど…」と題した説教が行われ、参加者は静かに耳を傾けながら、落ち着いた時間を共有しました。

なお、学生・教職員から寄せられたクリスマス献金は、ルーテル教会の関連施設「こどもL.E.Cセンター」(熊本)および「釜ヶ崎ディアコニアセンター喜望の家」(大阪)へ捧げられました。



中学・高校

慈愛園訪問

12月16日、中学1年生の代表が慈愛園を訪問し、クリスマスのご挨拶をしました。

生徒たちが授業で作成したクリスマスカードとPTA愛の一針運動による手作りの布巾をケアハウスとパウラスホームの利用者に手渡しました。慈愛園のみなさまに温かくお迎えいただき、お互いとても心温まるひとときを過ごしました。

九州女学院時代の卒業生から、エカード先生とハグをしながら「メリークリスマス」と伝えたお話を聞き、今も昔も変わらない、有意義なクリスマスがそこにあることを分かち合いました。



キャロリング

生徒有志によるキャロリングが、2日間にわけて行われました。初日(12月17日(水))は、室園教会、寮、こども園、インターナショナルスクール小学部を回り、クリスマスの訪れをともに喜びました。2日目(12月22日(月))は、くろかみ保育園、ルーテル熊本教会(水道町)とカトリック手取本町教会を訪れ、賛美しました。

クリスマスムードの高まる街中に、生徒たちの美しいハーモニーが響き渡りました。



インターナショナルスクール小学部



12月15日(月)に安達均チャプレンの司式のもと、大学チャペルにてクリスマス礼拝を行いました。英語で賛美歌を歌い、高学年の児童は聖書を英語で朗読しました。その後、大学生によるスペシャルパフォーマンスが披露され、クラリネットやフルート、トロンボーンの美しい音色に、子どもたちも静かに耳を傾けていました。最後は全員で「We wish you a merry Christmas」を賛美し、イエス様の誕生を祝いました。

こども園

毎年、クリスマス礼拝で年長組が演じる「聖劇」は、1948年に九州女学院幼稚園として開園してからこれまで、形を変えずに守り続けてきたものです。年長組はアドベントの時期になると、クリスマスの話を聞き、聖劇の役を決めていきます。マリアさん・ヨセフさん・天使・博士・宿屋・聖歌隊どの役も欠かすことのできない大切なものです。一人ひとりが真剣に取り組み、「はじめてのクリスマスの出来事」を、小さなクラスのお友達や保護者の方に伝えることができました。

